

学ぶ人達への思いから

人間国宝 研修所顧問 吉田美統氏

長年の九谷焼業界の願望の中で創設された九谷焼技術研修所は、創立以来26年が過ぎ、まさに光陰矢のごとしの思いであります。私は設立当初から多少なりと関わってまいりましたが、初代所長の杉本勇寿氏の人となりに、大変安心感と魅力を感じたものです。



寺井陶芸村の構想の中でできた研修所と、九谷の採石場近くでできた九谷焼試験場は、後継者の育成や技術素材面の研究指導のための施設で、それぞれの活用が期待され、業界の将来の展望に夢を与えたものであります。

以来、六百数十人が研修所を卒業し、九谷焼業界はもちろん全国で活躍しておられることは大変喜ばしいことで、個展をしておりますと研修所卒業生が観にきてくれ、いろいろな話をしたり質問にアドバイスをすることがありますが、やはり嬉しいものです。

創立から数年経った頃より、私も講師に任ぜられ釉裏金彩のカリキュラムを持つことになりましたが、制作工程の通り一遍のことを教えるだけで技術練達の習練ができないことが気にかかっております。研修生は九谷焼技法の全般を覚え、自分の進むべき道を選択し後々熟練した陶工に成長してもらいたいと思います。

短い時間で講師の方々のそれぞれの技法と知識を学ぶことは、大変ですが非常に大事なことであります。その学習の蓄積が、将来陶工として創作活動を行うとき、必ず役に立ってくれることと思えます。

昨今のような厳しい時代こそ優れた技能を身につけることは有利なことです。これからは西洋のマイスターのようにハンドメイドの製品が要望される時代になると思います。日進月歩のように進む素材、道具、デザインも勉強し、必要に応じて使いこなすことも大事なことです。研修所のますますの充実、研修生諸君の活躍を念じてやみません。

【平成22年度研修生募集中！】

研修所では、これからの九谷焼を担うあなたの挑戦を待っています。
体験・勧誘イベントの会場で

本科(2年制)
研究科(1年制)
実習科(週1日)

詳細は研修所までご連絡ください。



研修生・職員ワークショップ2009です



模索してこそ、やぞね。

◇◇産地外応援団から◇◇

東京焼窯元 多摩美大名誉教授 中村錦平氏

「通信1号」で見る、研修生+研修所+産地企業の関係が、釉薬研究の「三角座標」(知らない?勉強しまっし)に似ている、と思えました。

この三者の関係をもっと緊密にし、近未来の九谷焼を探求されるよう期待します。同号の「即戦力の卒業生」をとの企業側の要望に、身につまされながらも、僕はこう思いました。

僕のつくり手人生を顧みますと、35才迄にソニービル、カナダ万博日本館のレリーフ、ロックフェラー財団フェローと、人生の最初の山を約10年かけ、踏破できました。うち前半の5年余は、超多作で模索に没頭したので、登るべき山を見つけたのでした。

クレイクの講義から

研修生も同様です。模索期は欠かせません。

即戦型の力量程度では、手工業時代の分業型職人なら、また続く工業化時代の機械替りならともかく、情報化文明に突入し、モノ社会からコト社会へと、社会の構造と価値観を大転換させつつある現在にあつては、明日の山を見定めれるはずがありません。山を見つけて登る、その戦略づくりにこそ、三角座標にもの言わせ立ち向かいたいものです。

僕も、当研修所のカリキュラムで、模索を仕掛けています。粘土の可塑性ほど手の働かせ方ひとつで、限らない形を現出させるものは他にありません。

土とのやりとりに、更にごどう焼成するかを加え、多角的に取っ組んで貰う。そのプロセスこそが、一人一人に模索をつきつける。そうした伴走者として応援しています。



元気ですか？ 卒業生・OBの皆さん！

「九谷焼のDNAを後世に」

第12期生 北村 和義さん



研修所を卒業して早12年が過ぎました。今でも当時の授業のノートを開くことがあります。家業が九谷焼の製造業なこともあり、短大卒業後、研修所へ入学しましたが、それまで九谷焼にまともに触れたことも無かった僕は、初めて触れる九谷焼というものに心を奪われました。

「僕にも九谷焼を造ることができるんだ」ということに夢中になりアツという間の3年間でした。九谷焼の技法には無限の可能性と魅力があります。研修所ではこれらを一流の先生方に教えて頂きましたが、いかに貴重な経験だったか、ノートを開くたびに感じます。

九谷焼の現在は大変厳しい時代です。九谷に限ったことではなく、伝統工芸が一時のような盛んな時代は景気には関係なくもう来ないのではと思います。

しかしながら、そんな時だからこそ新しい可能性にも満ちています。守るものは守りながら変化していくことが伝統を受け継ぐことだと思いますし、研修生からも何かワクワクするような九谷焼や人が生まれて行くことを楽しみにしています。

「レンタル工房の経験を生かして」

第14期生 川合 孝知さん

私は研修所の基礎コースを1997年に卒業し、寺井の窯元で約8年間勤務し絵付けの基礎を学びました。

窯元には何人もの職人さんたちがおり、その方々の様な技術を身に付けたいと日々過ごしてきました。その後、多くの不安を抱え入居したレンタル工房（九谷焼技術者自立支援工房）では恵まれた環境の中、様々

なお客様に出会うことができ少しずつ販売先が増えてきました。まだまだ未熟な点が多々ありますが、技術の向上とともに自分のかたちにとらわれず、色々な方のご意見をとり入れ、誠実な仕事をしていきたいと思っています。

9月にはレンタル工房を出ますが、ここで得た経験を生かしていきたいと思っています。



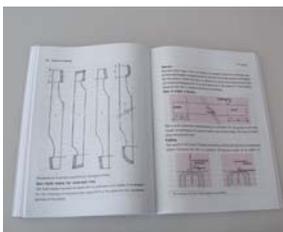
「ろくろ技法の本(英文)を出版しました」

第20期生 賀集 セリーナさん

私は現在、琵琶湖近傍の山中にある、風通しよい藁葺きの山小屋で製作に励んでおります。子供の頃から書くことが大好きで、将来は小説家か新聞記者になろうと考えていました。陶芸の道に入り、焼き物作りに没頭する毎日ですが、今でも文章を書くことが大好きです。焼き物作りを学んでいて一番困ったことは、ごく基本的でちょっとした技法やポイントが本に載っていないことです。知っていることより、知らないことをリストアップをした方が良いと思い、多くの疑問点を貯めておいて、研修所の先生方にお聞きし、必ずメモをとりました。先生方によって違う答えが返ってくることもありましたが、手仕事のやり方やコツには千差万別の方法が有り、大変興味深いものです。

貯まったメモを整理する過程で、本にまとめることが出来ないかと考えるようになり、大層苦勞しましたが、ようやく本の誕生にこぎつけることができました。

文章は英文で、イラストは手書きです。外国人のために真の入門書となるように願っております。



グループ紹介コーナー

「金沢な碗だより」

代表 第6期生 吉岡正義さん

<メンバー> 今村公恵さん 下中健一郎さん

津田幹子さん 十握周作さん

船木大輔さん 山下紫布さん 山口善生さん

第1回展示会(大和屋金沢展ギャラリー)から



今年の10月で1周年のまだまだ小さなグループです。作り手の集まりを作ることで個人の力ではできないことができるという、単純なところから始まりました。

多くの作り手がいてモノがあふれている時代、どのようにして使い手に渡るような仕掛け作りができるかというところが課題ではないでしょうか。もちろんモノの完成度を上げていくことも必要不可欠ですが、それが

当たり前になっている今の時代にそのモノをどのように使い手にアピールしていくかという問題も避けては通れません。

良い意味で何かしでかしてくれそうな、そんな期待感のもてるメンバーです。今後は話し合いを重ね、お互いに尊敬し合える人間関係を作りながら、諸先輩方の意見を頂いたり、若い作り手を育てるというところまで見据えるような活動をしていきたいと考えています。

九谷焼産地・企業は研修所に期待しています

【研修所との、より一層の繋がりを】

石川県陶磁器商工業協同組合
理事長 宮本 繁さん

研修所が、産地の期待を背負って能美の地に誕生してから25年が経過し、この間に大勢の方が卒業され、九谷焼の発展に寄与されていることは、大変喜ばしく、また心強く感じております。



これまでの九谷焼産地は、商工業協同組合（商組＝販売者）が中心となり、業界をリードしてきたという思いが強かったわけですが、近年の経済状況、消費志向の移りかわりとともに、九谷焼業界を取り巻く環境も随分厳しくなっており業界関係者全体が如何にして産業九谷を発展させていくかが大きな命題だと考えています。

こうした中、これまでどちらかといえば繋がりがやや弱かった商組と研修所ですが、このあり方も再考の時期かと思ひ、産・官・学全体で、陶芸村を核とした産地形成の話し合いを続けているところです。

人材の育成なくして九谷の発展もあり得ません。その中であって、研修所においては、九谷発展の基礎となる優秀な人材の養成に努力されており、今後の頑張りを益々ご期待申し上げるとともに、組合と研修所、卒業生・OBとの繋がりを、より一層深めていかなければならない時期に来ていると考えています。

【産地企業「卒業生を語る」】

和陶房代表 米田 和夫さん

問屋業を営みながら和陶房を立上げ、研修所卒業生を最初に受入れてから10年程経過しました。現在は3名が勤めており、和陶房の立ち上がりから卒業生の皆さんには、大変お世話になってきております。→

【産地の組合等の紹介PART2】

(H21年7月現在)

通信1号で掲載できなかった産地の組合・団体です

組合・団体名称	代表者	構成員
協同組合九谷焼特撰会	宮崎 政司	26名
九谷焼協同組合	東 秀樹	42名
九谷焼団地協同組合	北野 義和	16名
財団法人九谷焼振興協会	徳田八十吉	17名
九谷焼技術保存会	徳田八十吉	15名
石川県陶芸協会	吉田 美統	99名
九谷焼伝統工芸士会	福島 武山	77名

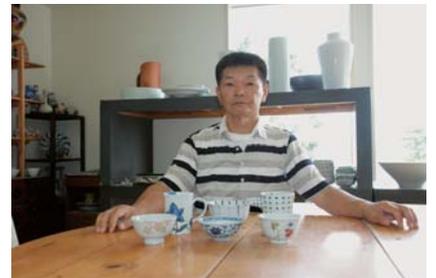
→和陶房では大手と違い、一人の力で物を作り出しています。チームワークで物を仕上げていく仕事では無く、個々の能力が問われます。小さな窯なので、技術とスピードが求められ、期待度も高く、卒業生には非常に可哀相な面もあります。

今、大変厳しい環境の中、九谷焼が産業として残っていくことすら危惧されております。問屋なくしては産業として成り立っていかない状況の中で、どうしたら良いのか誰か教えて欲しいものです。

絵付けばかりが良くてもだめで、窯元の重要な担い手となる素地づくりの人材も育成して欲しいと感じています。

ライフスタイルの変化と有り余るほどのものの中、物欲が全くない人たちも益々増えているように思えます。そういう点ではアートな九谷もいいかなとも。

業界には、研修所で学び、企業で技術を磨き、自力で頑張っている人も大勢います。ともかく、研修所と九谷焼業界がひとつになり、これからの九谷焼を生み出していただけるといいですね。



ちわんやいちだ

虚空蔵窯代表 市田 新一郎さん

虚空蔵窯(こくぞうがま)は、『楽しいやきものを創りたい』という思いから、1997年に由緒ある虚空蔵山の麓に、広大無辺な知恵と慈悲を持った虚空蔵菩薩にちなんで名付け、開窯しました。

移り変りの早いこの時代の中で、常に新しく個性的なやきものを造ることを心掛けています。虚空蔵窯ではこれまで4人の研修所卒業生を受け入れ、うち2人は現在も一緒に作陶活動に励んでいます。

この2人を通してこれからの研修生に望むことは“作品づくり”と“商品づくり”の違いを意識して、自分の持っているセンスを商品に落とし込み、窯元の即戦力として活躍していただくことです。また自分への驕りを捨てて、何事にも初心を忘れずに積極的に取り組んでいただきたいと思います。

今は、造り手と売りがしっかりと手を取り合い、ものづくりをする時代だと思います。アツイ気持ちがあふつかり合い、本気で取り組んだ時にこそ、いいモノが生まれると思っています。これからも、やきものにとらわれずにいろいろな分野で活躍できる人材を育てていただきたいと思います。



研修所事業・イベント紹介

その1 研究科クラフトA作品展の案内

「第14回 碗とカップ展」

時期：平成21年8月26日～9月1日

場所：名鉄エムザ5階「クラフトAギャラリー」

クラフトAギャラリーディレクター

研修所講師 大場 久子さんから

今年出品の研究科「7人の侍」

それ迄、器づくりの技術のイロハを勉強していた人達が、突然商品としての器を、それもあるレベルに達した作り手やメーカーの商品と同じフロアで肩を並べて置くことになるのですからプレッシャーは大変だと思います。



どの年も悩みながら制作に取り組んでいた研修生の真剣な眼差しが思い出されます。

DMづくりも、梱包もリストづくりも、ディスプレイも、接客も、全部自分達でこなさなければなりません。もちろん売上は、各個人に支払われます。

この作品展で初めて“世間の風”の中で自分の器をさらすことを味わい、いろいろな体験をします。そして終わると自分の持ち味の発見、商品化することの難しさ、売れるってどういうこと、等々が手探りでも少し感じられたら大成功です。気合を入れた分だけ自分に返ってくる実感は自信に繋がります。

まだまだ洗練されていない、完成度も今いちだけとそれに勝る個性や楽しさや、まだついているデコボコの味が研修生の器の魅力です。ちょっと低価格も手伝って常連客が掘り出し物を見つける楽しみで訪れ、我々スタッフも、お客様と一緒に楽しめます。

「自分のモノが、目の前で売れた時の感激を今でも忘れません」と卒業生の方が目を輝かされます。

その2 陶芸村まつり出店者の募集！

(10月31日～11月3日)

毎年、陶芸村まつりにあわせ、自立支援工房中庭のスペースに、現役生、卒業生・OBが出店・出品し、まつりの賑わいに一役買っています。

今年も、積極的に参加いただき販売されることを期待しています。希望の方は、早めに研修所まで。

【編集後記】

関係の皆様のご協力をいただき、第2号を予定どおり発行できました。今回は、写真類を多くし、ビジュアルな感じにできたのは良かった点、詰め込みすぎた感じがイマイチの反省点です。

ともかく、こういったものは第3号までは試行錯誤だと思っています。「参加型の通信」をキーワードに、内容の充実に努めていきたいと思っています。

◇◇シリーズ お隣・近所さん◇◇

九谷焼団地協同組合です！

理事長 北野義和さん

九谷陶芸村での九谷焼卸団地建設に賛同し、組合を結成したのが昭和54年、団地の完成をみたのが同57年で、現在では16社が出店しています。この完成を記念し、陶芸村を宣伝するために、団地完成式を行った11月に毎年「九谷陶芸村まつり」と題し、少ない店舗ながら、お客様が集まるような色々な企画をしアピールしており、27年目を迎える今年は10月31日～11月3日に開催することとしております。

ここに出店された方は、皆様、自分のショールームを持つことが夢でありました。各社それぞれ、全国の百貨店・小売店・業務用店を取引先とし、また一部直販にて営業をしております。厳しい世の中ではございますが、この陶芸村を大いに宣伝し、立派な施設の中で私達も頑張っていきたいと思っています。これからもう宜しくお願いいたします。

昨年の陶芸村まつりから



その3 ネットビジネスセミナー開催の案内

「ネットで伸ばす九谷焼」(仮題)

日時：平成21年11月18日(水) 13:30～

場所：九谷焼技術研修所

講師：(株)九谷物産副社長 竹内幸生氏

売れるショップと売れないショップの違いは何なのでしょう？実際に売れている九谷の商品とは？そもそもネットで九谷が売れるの？。売れる商品には必ず「理由」があります。商品の中で実際に売上げを作っている、いわゆるヒット商品は何点あるのでしょうか？売れる商品の理由が分かれば、売れるものを作り出す確率が上がります。

ネットショップ立ち上げから、売上げを伸ばしてきた経験をお話します。



「研修所通信NO.2」

発行：平成21年8月

編集：石川県立九谷焼技術研修所

能美市泉台町南2番地

TEL 0761-57-3340

FAX 0761-57-3342

<http://www.pref.ishikawa.jp/kutanike/>

印刷：鶴川印刷株式会社

「紙へリサイクル可」

